

## 湯元周辺積雪期利用について

質が良く適度の積雪、豊かな景観と自然に恵まれた湯元周辺はスノーシューの適地であり、自然ふれあいなど国立公園の趣旨、またスキー場の不振など地元への観光経済効果の面からもスノーシュー利用は今後の積雪期利用の柱になると期待されている。しかし、これによって自然を傷めたり事故の起きることがあってはならないので、積雪期利用についての基本的な心得を「湯元周辺積雪期利用コード」としてまとめた。イベント等に際してはこのコードを守るよう主催者、利用者に周知するよう努めるものとする。

### (基本的な考え方)

1. 積雪期は常に雪崩などさまざまな危険が起こり得る。このことを理解し、安全の確保は自己責任で行う。

### (事故の未然防止)

1. イベント等の主催者、ガイド、公園管理者等関係者は、危険の兆候を発見した時には速やかに関係団体等に連絡して利用者への周知に努め、事故の未然防止に努める。

また、冬季情報交換会は、利用者の安全を確保するため、週に一度ほどパトロールを実施して、コースの状況を確認する。降雪・降雨・強風等があった場合にも、パトロールを実施し、危険個所の調査等により、利用者の安全確保に努める。

### (自然の保護)

1. 積雪が少なく植物が露出している場合には、コースや日程の変更、利用者への注意喚起等により、植物をいためないように留意する。

2. 動物や鳥には絶対にえさをやらない、ゴミや残飯は必ず持ち帰るよう周知する。

3. 長距離コースではできるだけ携帯トイレを携行し、紙は袋に入れて持ち帰るよう協力を呼びかける。

4. 道路やスキー場以外はスノーモービルで走らない。

(平成 31 年 1 月 22 日改定)